

中学生からみた家庭生活領域の学習 家庭生活領域の学習項目に対する到達感と必要感の分析を通して

奥村美代子*・高森 壽*
宮瀬美津子**・多久慶子**・内藤貴美子*

Teaching Materials in The Area of Home Life as Viewed from Junior High School Students' Standpoints.

Miyoko OKUMURA, Hisa TAKAMORI,
Mituko MIYASE, Keiko TAKU and Kimiko NAITO

(Received October 1, 1992)

A questionnaire survey was conducted on 880 junior high school students (387 males and 419 females) in Kumamoto prefecture in 1991.

The findings were as follows:

1. Teaching materials closely related to students life got higher scores than those not closely related to students life.
2. Items with high scores for feelings of necessity had also high scores for feelings of achievement.
3. Feelings of necessity of students for teaching materials were different from those of teachers.

目 的

1993年から実施される男女必修の家庭生活領域の学習は、家庭科の本質的内容として、きわめて重要な位置を占めるものである¹⁾。家庭生活は、人間の一生にわたって深い関わりを持ち、次代の人間の育成と地域環境の保全に深い影響をもたらしているからである。

家庭生活領域の学習内容を考える立脚点として、生徒の学習要求を認識することがなによりも重要であると思われる。本研究の目的は、家庭生活領域で必要な学習内容について、生徒の立場から検討することにある。

1987年に実施した熊本市における小学校5、6年生の家庭生活行動項目に対する学習意欲²⁾、同じく熊本市の中学校1、2年生の生活行動項目に対する難易感及び到達感³⁾をふまえて調査表を作成した。

調査の内容は、家庭生活行動項目及び認識項目に対して、現在の中学1年生がもつ到達感と必要感の程度をあらかじめし、それを通して家庭生活領域の内容及びその取り扱いについて考えるものである。

方 法

調査対象者は、熊本県の商業地区、北部農業地区、南部農業地区にある中学校合計20校の1年生880名(男子387名、女子419名)である。

調査期間は1991年9月15日から11月15日にわたる2ヶ月間で、調査方法は自記式の質問紙を用いた。有効回収率は98.0%である。

調査項目は、家族の生活、家庭の経済、家庭のしごと、家庭生活と地域社会の各分野からなる68項目で、その項目の詳細は図1～4、表1～4に掲げている。この各項目について、到達感としては、行動項目の場合「できる」・「少しできる」・「できない」、知識項目の場合「知っている」・「少し知っている」・「知らない」の3段階、必要感としては「現在の生活に必要」・「現在・将来必要」・「必要でない」の4段階の中から自分にあてはまる1項目を選択させた。結果の処理は、最終的には「できる-できない」

* 家政教育

** 尚綱短期大学家政科

本稿の概要は日本家庭科教育学会第35大会(1992.7, 鹿児島)において発表

「必要-必要でない」の2段階処理とし、篠原のTWCROSを用いてコンピュータによる統計処理を行なった。

結 果

1. 学習項目に対する到達感および必要感

1) 到達感

図1に示すように、家庭生活領域の学習項目中、家族の生活に関する行動項目について「できる」と

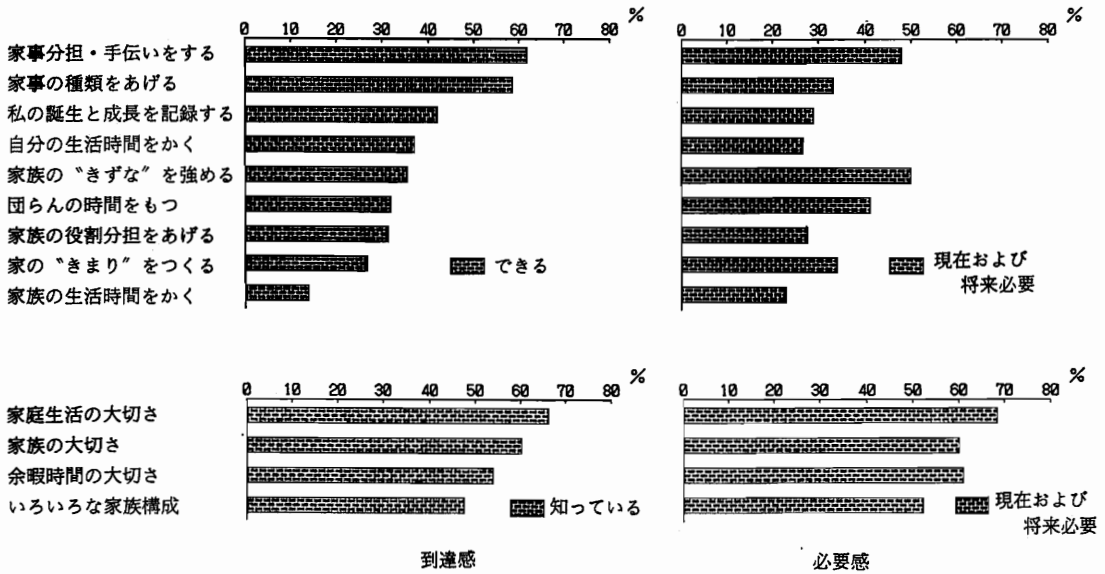


図1 学習項目に対する到達感と必要感—家族の生活

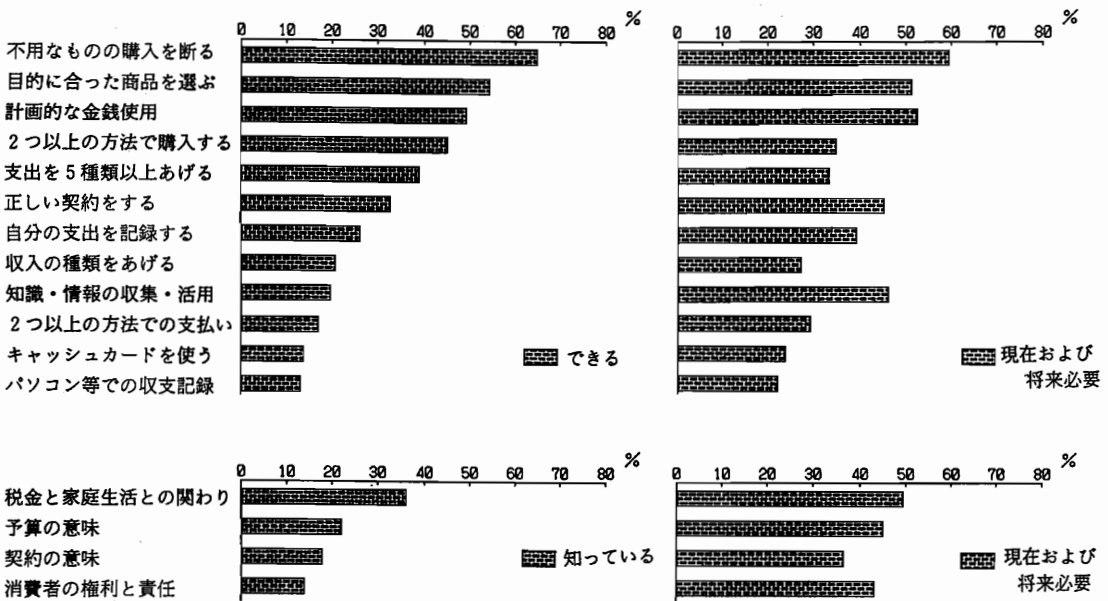


図2 学習項目に対する到達感と必要感—家庭の経済

する到達感の高い項目(50%を越えるもの)は、“家事分担・手伝いをする”61.9%、“家事の種類をあげる”58.6%の2項目であった。一方、到達感の低い項目は、“家族の生活時間をかく”14.0%、“家のきまりをつくる”26.6%であった。「知っている」とする知識項目においては、どの項目も到達感が高く、中でも、“家庭生活の大切さ”では66.2%、“家族の大切さ”では60.2%を占めていた。

図2に示すように、家庭の経済に関する行動項目について到達感の高い項目は、“不用品の購入を断る”64.9%、“目的にあった商品を選ぶ”54.5%の2項目であった。到達感の低い項目は、“知識・情報の収集・活用”19.8%、“2つ以上の方法での支払い”

17.3%、“キャッシュカードを使うこと”14.1%、“パソコン等での収支記録”13.2%で、それぞれ20%以下であった。知識項目においてはどの項目も到達感が低く、中でも“消費者の権利と責任”では14.0%、“契約の意味”では17.9%であった。

図3に示すように、家庭のしごとに関する行動項目について到達感の高い項目は27項目中9項目で、中でも“簡単な食事を作ること”70.8%、“自分にあった既製服の選択”60.8%、“着用目的にあった着装”60.4%、“日常着の洗たく”60.4%の4項目は、それぞれ60%以上を占めていた。一方、到達感の低い項目は、“食費の計算”11.7%、“衣服のリサイクル”17.0%、“ダニの駆除”18.1%、“素材別洗剤の選び

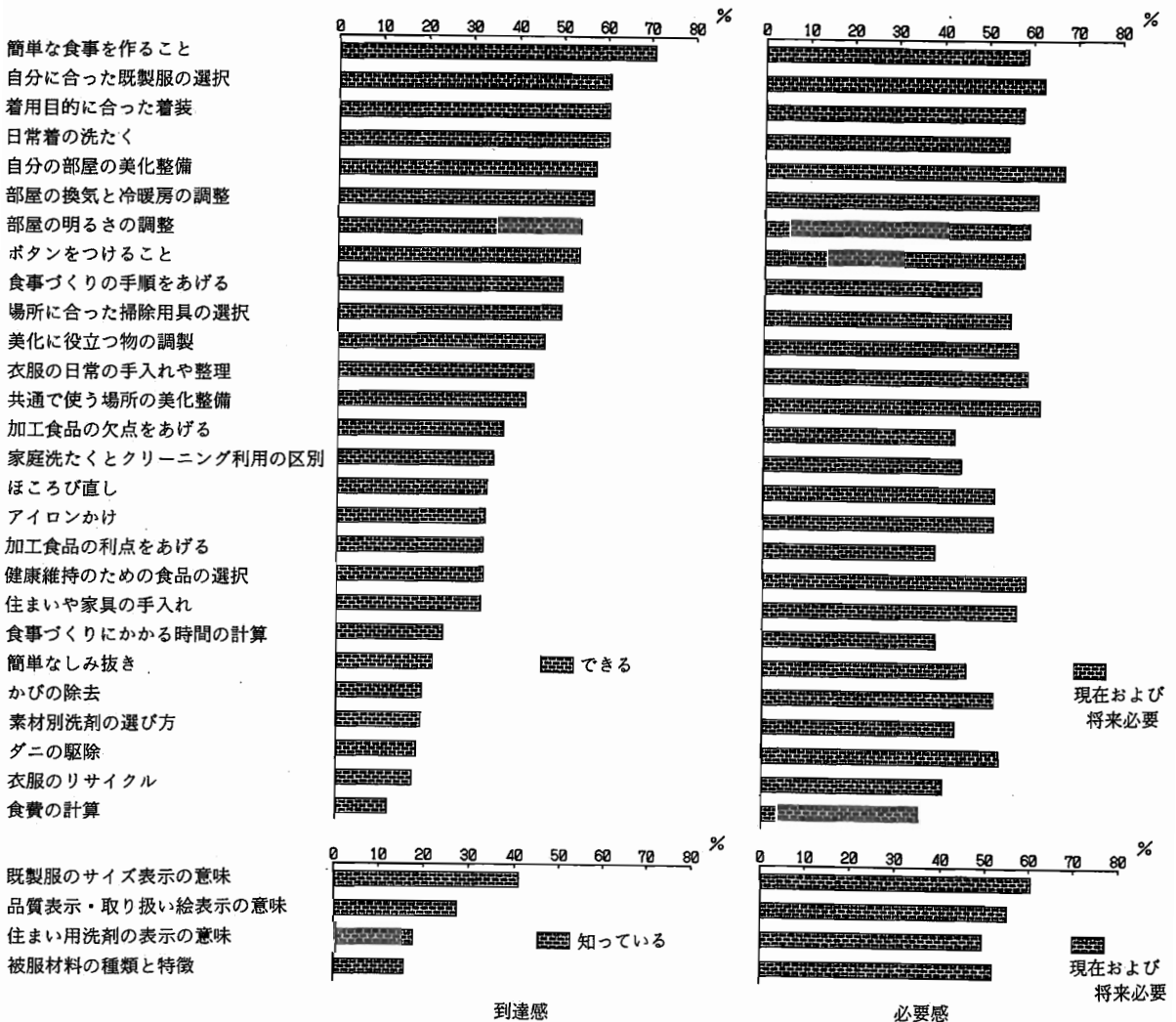


図3 学習項目に対する到達感と必要感—家庭の仕事

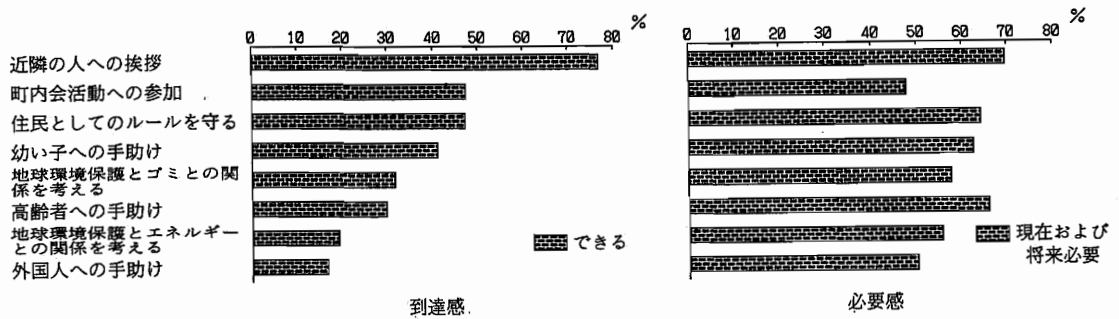


図4 学習項目に対する到達感と必要感—家庭生活と地域社会

方”18.8%，“かびの除去”19.0%の5項目であった。知識項目の到達感はいずれも低く、特に“被服材料の種類と特徴”では15.9%，“住まい用洗剤の表示の意味”では17.6%であった。

図4に示すように、家庭生活と地域社会に関する行動項目について到達感の高い項目は、“近隣の人への挨拶”で76.8%に達していた。到達感の低い項目は、“外国人への手助け”16.7%，“環境保護とエネルギーとの関係を考える”19.0%であった。

2) 必要感

図1に示すように、家族の生活に関する行動項目について、「現在および将来の生活に必要な」（以下「現在および将来必要」と略す）とする必要感の高い項目（50%を越えるもの）は、“家族のきずなを強める”50.1%であった。必要感の低い項目は、“家族の生活時間をかく”23.1%，“自分の生活時間をかく”26.8%等であったが、20%以下の特に低い項目は認められなかった。知識項目はいずれも必要感が高く、特に“家庭生活の大切さ”では68.5%に達していた。

図2に示すように、家庭の経済に関する行動項目について必要感の高い項目は、“不要なものの購入を断る”59.5%，“計画的な金銭使用”52.4%，“目的にあった商品を選ぶ”51.3%の3項目であった。必要感の低い項目は、“パソコン等での収支記録”22.2%，“キャッシュカードを使うこと”23.7%であったが、20%以下の項目は認められなかった。知識項目では必要感の高い項目は認められなかったが、最も低い“契約の意味”でも36.7%であり、他の3項目は40%台を占めていた。

図3に示すように家庭のしごとに関する行動項目について必要感の高い項目は27項目中に18項目で、中でも“自分の部屋の美化整備”67.2%，“自分にあった既製服の選択”62.6%，“共通で使う場所の美化整備”62.2%，“部屋の換気と冷暖房の調整”61.3%

の4項目では、それぞれ60%以上を占めていた。必要感の最も低い項目は“食費の計算”34.8%であり、30%以下の項目は認められなかった。知識項目についてはいずれも必要感が高く、“既製服のサイズ表示の意味”は60.5%に達していた。

図4に示すように、家庭生活と地域社会に関する行動項目について必要感の高い項目は8項目中7項目で、中でも“近隣の人への挨拶”69.7%，“高齢者や障害者への手助け”66.3%，“住民としてのルールを守る”64.4%，“幼い子への手助け”62.8%の4項目では、それぞれ60%以上を占めていた。必要感の低い項目は認められなかった。

2. 到達感と必要感の関連

到達感と必要感の関連について、篠原のTWO-CROSを用いて算出したクロス集計を表1～4に示した。各項目について、到達感の異なるグループごとに必要感の程度をみたものである。「できる」「知っている」とする到達感の高いグループと、「できない」「聞いたことがない」とする到達感の低いグループとの相違についてのべる。

1) 家族の生活

表1に示すように、家庭の生活に関する行動項目について「できる」とする者のグループでは、“自分の生活時間をかく”以外の全項目において「現在および将来必要」と答えた者の割合が最も多かった。中でも、“家族のきずなを強める”および“家事分担・手伝いをする”では、いずれも50%以上を占めていた。一方、「できない」とする者のグループでは、全項目において「必要でない」と答えた者が最も多く、“自分の生活時間をかく”“家族の生活時間をかく”“私の誕生と成長を記録する”では60%以上に達していた。

知識項目については、「知っている」とする者のグ

中学生からみた家庭生活領域の学習

表1 到達感と必要感の関連——家族の生活

(%)

項 目	で き る					少 しで き る					で きな い				
	現在 必要	現在 及び 将来 必要	将来 必要	必要 でない	計	現在 必要	現在 及び 将来 必要	将来 必要	必要 でない	計	現在 必要	現在 及び 将来 必要	将来 必要	必要 でない	計
自分の生活時間をかく	37.2	28.5	6.0	28.2	99.9	27.2	31.4	16.5	24.9	100.0	14.2	4.7	10.4	70.8	100.1
家族の生活時間をかく	27.0	40.5	8.1	24.3	99.9	30.2	28.3	11.8	29.7	100.0	11.9	10.6	12.3	65.2	100.0
家事の種類をあげる	23.1	38.0	22.3	16.6	100.0	18.3	27.4	34.9	19.5	100.1	7.6	23.9	28.3	40.2	100.0
家族の役割分担をあげる	34.3	35.9	12.7	17.1	100.0	35.4	27.5	20.1	17.0	100.0	19.0	16.9	16.4	47.7	100.0
家事分担・手伝いをする	21.4	52.8	24.2	1.6	100.0	23.3	44.2	28.3	4.3	100.1	19.1	17.0	23.4	40.4	99.9
家族の“きずな”を強める	22.8	59.8	13.9	3.6	100.1	21.7	49.3	22.6	6.4	100.0	14.1	23.9	19.6	42.4	100.0
私の誕生と成長を記録する	13.0	37.9	27.8	21.3	100.0	10.1	29.5	28.2	32.2	100.0	6.7	10.3	20.6	62.4	100.0
家の“きまり”をつくる	33.0	47.2	10.4	9.4	100.0	35.3	39.2	14.0	11.5	100.0	15.1	13.2	12.3	59.4	100.0
団らんの時間をもつ	32.4	48.0	13.3	6.3	100.0	32.9	42.2	16.4	8.5	100.0	23.5	28.9	17.5	30.1	100.0

(%)

項 目	知 っ て い る					少 し知 っ て い る					聞 いた こと が な い				
	現在 必要	現在 及び 将来 必要	将来 必要	必要 でない	計	現在 必要	現在 及び 将来 必要	将来 必要	必要 でない	計	現在 必要	現在 及び 将来 必要	将来 必要	必要 でない	計
家族の大切さ	10.4	69.5	18.3	1.9	100.1	10.5	49.8	35.4	4.2	99.9	3.7	34.1	24.4	37.8	100.0
いろいろな家族構成	11.6	62.3	15.0	11.1	100.0	12.5	51.0	28.5	8.0	100.0	8.6	29.6	17.8	44.1	100.1
家庭生活の大切さ	10.1	77.0	10.5	2.5	100.1	12.3	54.0	28.4	5.2	99.9	12.3	43.9	14.0	29.8	100.0
余暇時間の大切さ	18.9	65.7	12.8	2.6	100.0	16.0	61.5	19.8	2.7	100.0	11.8	41.8	19.1	27.3	100.0

χ^2 検定 **印は $p < 0.01$

表2 到達感と必要感の関連——家庭の経済

(%)

項 目	で き る					少 しで き る					で きな い				
	現在 必要	現在 及び 将来 必要	将来 必要	必要 でない	計	現在 必要	現在 及び 将来 必要	将来 必要	必要 でない	計	現在 必要	現在 及び 将来 必要	将来 必要	必要 でない	計
収入の種類をあげる	25.9	32.5	22.3	19.3	100.0	19.7	39.0	20.4	20.8	99.9	13.9	15.9	20.1	50.1	100.0
支出を5種類以上あげる	24.3	39.2	21.4	15.2	100.1	20.3	35.0	25.2	19.5	100.0	12.3	26.8	26.0	38.8	99.9
計画的な金銭使用	18.3	61.0	15.8	4.9	100.0	23.3	51.2	21.9	3.5	99.9	13.9	32.4	24.8	24.8	99.9
自分の支出を記録する	20.5	53.3	15.2	11.0	100.0	17.6	48.8	21.5	12.1	100.0	14.4	19.8	24.2	41.6	100.0
パソコン等での収支記録	16.2	44.8	19.0	20.0	100.0	17.4	28.7	30.3	23.6	100.0	7.0	15.3	25.6	52.0	99.9
目的にあった商品を選ぶ	26.1	56.4	14.8	2.8	100.1	17.6	49.5	22.7	10.2	100.0	16.7	25.8	22.7	34.8	100.0
キャッシュカードを使うこと	10.6	51.3	23.9	14.2	100.0	9.3	39.5	34.1	17.1	100.0	3.8	14.4	38.4	43.4	100.0
2つ以上の方法での支払い	18.1	52.2	19.6	10.1	100.0	9.3	42.8	33.0	14.9	100.0	6.3	15.5	39.0	39.2	100.0
2つ以上の方法で購入する	22.0	47.6	16.4	13.9	99.9	14.0	33.8	29.3	23.0	100.1	3.7	14.5	25.7	56.1	100.0
正しい契約をする	14.8	59.3	20.2	5.7	100.0	11.3	47.8	30.7	10.1	99.9	9.0	21.9	38.8	30.3	100.0
不用なものの購入を断る	14.2	62.1	13.8	9.9	100.0	11.9	59.7	18.4	10.0	100.0	10.4	41.6	24.7	23.4	100.1
知識・情報の収集・活用	15.8	63.9	15.8	4.4	99.9	12.3	50.0	30.7	7.0	100.0	3.6	22.4	38.0	35.9	99.9

(%)

項 目	知 っ て い る					少 し知 っ て い る					聞 いた こと が な い				
	現在 必要	現在 及び 将来 必要	将来 必要	必要 でない	計	現在 必要	現在 及び 将来 必要	将来 必要	必要 でない	計	現在 必要	現在 及び 将来 必要	将来 必要	必要 でない	計
予算の意味	12.6	61.1	22.9	3.4	100.0	5.8	47.4	42.9	4.0	100.1	6.3	28.4	41.0	24.3	100.0
契約の意味	9.1	54.5	30.8	5.6	100.0	7.1	41.4	45.8	5.7	100.0	5.3	23.8	41.7	29.2	100.0
消費者の権利と責任	11.8	61.8	16.4	10.0	100.0	6.3	50.9	37.2	5.6	100.0	5.6	31.0	41.9	21.5	100.0
税金と家庭生活との関わり	9.8	56.4	31.0	2.8	100.0	6.2	51.7	38.7	3.4	100.0	4.0	31.8	31.8	32.5	100.1

χ^2 検定 **印は $p < 0.01$

表3 到達感と必要感の関連 — 家庭のしごと

(%)

項 目	で き る					少 しで き る					で きな い					
	現在 必要	現在 及び 将来 必要	将来 必要	必要 でない	計	現在 必要	現在 及び 将来 必要	将来 必要	必要 でない	計	現在 必要	現在 及び 将来 必要	将来 必要	必要 でない	計	
食事づくりの手順をあげる	12.6	55.8	24.1	7.5	100.1	11.0	45.3	36.0	7.7	100.0	6.0	28.0	29.0	37.0	100.0	**
食事づくりにかかる時間の計算	18.5	55.6	18.0	7.9	100.0	11.6	42.5	34.1	11.8	100.0	7.3	21.5	30.0	41.2	100.0	**
健康維持のための食品の選択	15.5	64.0	17.4	3.1	100.0	8.4	62.5	25.1	4.0	100.0	12.1	42.4	23.0	22.4	99.9	**
加工食品の利点をあげる	16.2	46.2	15.8	21.9	100.1	12.8	40.9	26.7	19.6	100.0	7.5	24.0	13.0	55.5	100.0	**
加工食品の欠点をあげる	14.0	50.5	17.4	18.1	100.0	14.1	46.0	24.5	15.4	100.0	7.9	27.1	12.3	52.7	100.0	**
簡単な食事を作ること	11.5	62.1	22.9	3.5	100.0	9.9	51.1	31.3	7.7	100.0	11.5	25.0	23.1	40.4	100.0	**
食費の計算	17.0	50.0	21.3	11.7	100.0	7.5	46.9	41.8	3.8	100.0	5.1	25.6	43.7	25.6	100.0	**
着用品にあつた着装	18.8	64.0	11.7	5.6	100.1	10.7	57.0	21.1	11.2	100.0	8.3	20.8	26.4	44.4	100.1	**
自分にあつた既製服の選択	14.5	68.4	12.3	4.7	99.9	10.2	61.9	21.7	6.1	99.9	16.9	25.4	26.8	31.0	100.1	**
衣服の日常の手入れや整理	15.3	65.4	17.6	1.7	100.0	9.4	59.9	25.4	5.3	100.0	5.8	36.5	24.0	33.7	100.0	**
素材別洗剤の選び方	18.0	47.3	29.3	5.3	99.9	9.3	50.6	37.0	3.1	100.0	7.1	33.5	40.4	18.9	99.9	**
日常着の洗たく	10.4	63.8	23.1	2.7	100.0	8.8	46.9	38.2	6.1	100.0	11.5	24.1	37.9	26.4	99.9	**
簡単なしみ抜き	16.4	58.5	21.6	3.5	100.0	10.5	54.1	29.7	5.7	100.0	4.5	31.4	41.1	23.0	100.0	**
家庭洗たくクリーニング利用の区別	11.8	58.4	26.2	3.6	100.0	6.7	47.1	40.4	5.8	100.0	4.8	21.9	46.2	27.1	100.0	**
アイロンかけ	11.0	63.1	22.8	3.0	99.9	8.7	55.4	31.6	4.2	99.9	3.9	30.9	43.1	22.1	100.0	**
ほころび直し	9.0	65.8	21.8	3.4	100.0	10.5	52.8	31.2	5.6	100.1	8.2	32.2	33.7	26.0	100.1	**
ボタンをつけること	9.5	66.8	19.3	4.4	100.0	8.3	56.7	26.8	8.3	100.1	14.0	29.8	28.9	27.2	99.9	**
衣服のリサイクル	15.7	58.2	22.4	3.7	100.0	10.0	50.5	28.3	11.2	100.0	7.2	23.8	31.6	37.3	99.9	**
自分の部屋の美化整備	16.3	70.4	10.0	3.3	100.0	14.5	69.1	13.8	2.6	100.0	16.4	39.7	20.5	23.3	99.9	**
共通で使う場所の美化整備	14.3	69.0	13.1	3.6	100.0	14.2	61.2	20.8	3.7	99.9	8.0	40.2	18.4	33.3	99.9	**
場所にあつた掃除用具の選択	15.3	62.8	17.6	4.3	100.0	10.4	54.5	28.6	6.5	100.0	9.7	26.9	23.7	39.8	100.1	**
住まいや家具の手入れ	12.8	66.7	17.4	3.1	100.0	11.6	58.8	24.7	4.8	99.9	8.1	33.3	31.1	27.4	99.9	**
かびの除去	20.9	60.1	11.8	7.2	100.0	13.3	61.2	20.3	5.2	100.0	11.5	41.3	28.7	18.6	100.1	**
ダニの駆除	17.9	64.8	11.0	6.2	99.9	15.6	59.6	19.6	5.2	100.0	11.1	44.7	28.0	16.2	100.0	**
部屋の明るさの調整	21.8	63.7	9.4	5.1	100.0	15.9	61.7	16.3	6.1	100.0	16.7	36.3	19.6	27.5	100.1	**
部屋の換気と冷暖房の調整	18.9	65.9	9.0	6.2	100.0	21.8	58.8	15.6	3.9	100.1	12.5	44.3	14.8	28.4	100.0	**
美化に役立つ物の調製	16.9	65.4	13.9	3.8	100.0	14.3	53.3	24.9	7.5	100.0	7.3	39.4	23.9	29.4	100.0	**

(%)

項 目	知 っ て い る					少 し知 っ て い る					聞 いた こと が な い					
	現在 必要	現在 及び 将来 必要	将来 必要	必要 でない	計	現在 必要	現在 及び 将来 必要	将来 必要	必要 でない	計	現在 必要	現在 及び 将来 必要	将来 必要	必要 でない	計	
品質表示・取り扱い表示の意味	14.4	63.9	19.0	2.8	100.1	10.0	60.0	26.6	3.5	100.1	8.7	32.6	22.1	36.6	100.0	**
既製服のサイズ表示の意味	15.6	69.0	12.6	2.8	100.0	12.8	60.4	20.6	6.1	99.9	7.4	35.2	20.4	37.0	100.0	**
被服材料の種類と特徴	16.7	58.7	15.9	8.7	100.0	6.3	59.2	27.9	6.6	100.0	7.1	31.8	32.7	28.4	100.0	**
住まい用洗剤の表示の意味	13.6	60.0	21.4	5.0	100.0	7.2	56.4	29.7	6.7	100.0	6.3	30.7	35.7	27.3	100.0	**

χ²検定 **印は p<0.01

表4 到達感と必要感の関連——家庭生活と地域社会

(%)

項 目	で き る				計	少しできる				計	できない				計	
	現在必要	現在および将来必要	将来必要	必要でない		現在必要	現在および将来必要	将来必要	必要でない		現在必要	現在および将来必要	将来必要	必要でない		
近隣の人への挨拶	16.4	73.5	7.2	2.9	100.0	18.2	60.0	18.8	3.0	100.0	9.5	33.3	23.8	33.3	99.9	**
町内会活動への参加	29.8	53.4	8.1	8.6	99.9	24.1	48.1	13.0	14.8	100.0	8.2	25.8	18.6	47.4	100.0	**
住民としてのルールを守る	19.0	68.1	10.3	2.6	100.0	16.7	64.7	14.3	4.3	100.0	9.4	35.8	22.6	32.1	99.9	**
高齢者への手助け	10.8	77.9	9.2	2.1	100.0	13.0	66.4	17.3	3.4	100.1	11.3	41.7	26.1	20.9	100.0	**
幼い子への手助け	15.1	72.5	9.7	2.7	100.0	13.4	61.8	20.2	4.6	100.0	6.1	34.3	24.2	35.4	100.0	**
外国人への手助け	14.2	64.2	15.7	6.0	100.1	6.3	60.2	28.0	5.5	100.0	7.1	33.7	32.2	26.9	99.9	**
地球環境保護とゴミとの関係を考える	7.5	72.0	18.1	2.4	100.0	6.7	57.3	32.3	3.7	100.0	5.5	35.2	29.0	30.3	100.0	**
地球環境保護とエネルギーとの関係を考える	11.6	71.1	14.7	2.6	100.0	7.7	59.6	28.8	3.8	99.9	4.8	39.0	30.1	26.1	100.0	**

χ^2 検定 **印は $p < 0.01$

ループでは、「現在および将来必要」が全項目において60%以上を占めていた。一方、「聞いたことがない」とする者のグループでは、4項目中2項目において「現在および将来必要」が最も多かったが、他の2項目では「必要でない」の方が多かった。しかし、その割合はいずれも20%台～40%台であった。

2) 家庭の経済

表2に示すように、家庭の経済に関する行動項目について「できる」とする者のグループでは、全項目において「現在および将来必要」が最も多く、中でも「不用なものの購入を断る」「計画的な金銭使用」では60%以上を占めていた。しかし、「できない」とする者のグループでは、12項目中9項目において「必要でない」の割合が最も多かった。特に、「2つ以上の方法で購入する」「パソコン等での収支記録」「収入の種類をあげる」においては50%を越えていた。

知識項目においては、「知っている」とする者のグループでは「現在および将来必要」が50%～60%台を占め、「必要でない」は10%以下であった。しかし、「聞いたことがない」とする者のグループでは「将来必要」が30%～40%台で最も多く、「現在および将来必要」と「必要でない」はいずれも20%台～30%台であった。

3) 家庭のしごと

表3に示すように、家庭のしごとに関する行動項目について「できる」とする者のグループでは、全項目とも「現在および将来必要」の割合が最も多く、「加工食品の利点をあげる」以外の全項目において50%以上を占めていた。「できない」とするグループでも、27項目中11項目において「現在および将来必要」が最も多く、「ダニの駆除」「部屋の換気と冷暖房の

調整」など5項目で40%以上を占めていた。しかし、9項目においては「必要でない」が最も多く、「加工食品の利点をあげる」、「加工食品の欠点をあげる」では50%以上を占めていた。

知識項目については、「知っている」とする者のグループでは、全項目とも「現在および将来必要」が最も多く50%台～60%台であった。「聞いたことがない」とするグループでは、「現在および将来必要」「将来必要」「必要でない」の割合がほぼ同じ20%台～30%台であった。

4) 家庭生活と地域社会

表4に示すように、家庭生活と地域社会に関する項目について「できる」とする者のグループでは「現在および将来必要」の割合が最も多く、8項目中5項目で70%以上を占めていた。一方、「できない」とする者のグループでは5項目で「現在および将来必要」が最も多く、他の3項目では「必要でない」が多かったが、その割合はそれぞれ20%～40%の範囲であった。

考 察

1. 必要感及び到達感の程度とその関連

(1) 必要感及び到達感の程度

学習項目に対する生徒の必要感と到達感の程度は、図1～図4に示すように、全体として必要感が到達感よりも高く現われている。必要感と到達感のずれはどの分野でも認められるが、図3の「家庭のしごと」及び「家庭生活と地域社会」の分野でやや顕著となっている。

必要感の高い項目は「自分に合った既製服の選択」や「自分の部屋」や「共通で使う場所の美化整備」

など、自分に身近な項目であり、これらは到達感も高い。反対に必要感の低い項目は“食費の計算”“キャッシュカードを使う”など現在の自分の生活から遠いものであり、到達感も低い。したがって学習項目は生徒の生活の中から選択することが望まれる。

(2)到達感と必要感との関連

表1～表4に示すように、全体として学習項目に対する到達感の高い生徒は必要感が高い。「できる」または「知っている」とする者は「家族の生活」分野の一例を除いて、すべて「現在及び将来必要」としている。さらに、「できない」とする者でも「現在及び将来必要」・「将来必要」とする者が「家庭の経済」で12項目中3項目、「家庭のしごと」で48項目中14項目、「家庭生活と地域社会」で5項目ある。また「聞いたことがない」とする者でも「将来、必要」とする者が、「家族の生活」で4項目中2項目、「家庭の経済」で4項目中3項目、「家庭のしごと」で4項目中2項目認められた。

到達感の低い者も将来は必要であると思っているのであるから、将来の必要感を現在の必要感に結びつける工夫をして、必要感を高めることが学習指導上重要であると思われる。

2. 家庭生活領域の学習内容に対する学習者と指導者の意識の相違

学習項目に対する生徒の必要感の程度について、図1、図2、図3、図4を通覧すると、分野としては「家庭生活と地域社会」、「家庭のしごと」で高く、ついで「家族の生活」となり、「家庭の経済」で低いことが認められる。この対象者は、初歩的な家族、衣食住、経済の学習を小学校でできてはいるが、調査にあげた学習項目の内容を十分に理解しているということは出来ない。自分の家庭生活の実情やマスメディアを通して得た知識を元にして、現在及び将来必要であると認識した項目をあげているとみることができよう。

一方、ほぼ同時期に実施された、指導者である家庭科教師を対象とした調査の結果⁴⁾によると、家庭生活領域で扱いたいとする学習内容を、主に家族・経済・家庭経営に関係する項目とし、家庭のしごとに関連する項目は取り入れたくないとしている。衣生活・食生活は主に選択領域で扱い、住生活は他の学校段階または家庭で扱い、家庭生活と地域社会は家庭で扱うのがよいと認識している。例をあげると、学習者は、既制服の選択や衣服の手入れが必要と感じ、このため、被服材料の特徴を知ることが必要であると考えているが、指導者は被服材料の特徴は選択の被服領域で学ばせたいと考えている。男女必修としての衣生活に関する項目の学習は家庭生活領域のみであることも考慮すべきであろう。また、学習者は掃除の仕方や近隣関係・住民としてのルールは学びたいとしているが、指導者は家庭で扱うのがよいとしている。小・中・高の一貫性を重んじる立場から、家庭生活領域で家族・経済・経営の内容を扱いたいとする指導者の学問的意図も理解できるが、それよりも、学習者の現実の生活実態を通して出てきた実際の学習意欲を吸い上げた学習項目を編成することが大切ではないかと考える。

引用文献

- 1) 日本家庭科教育学会九州地区：「発達段階からみた家庭科の指導内容」『時代の変化に答える—カリキュラムの研究—』、日本家庭科教育学会編、36、1987
- 2) 奥村美代子、兼信英子、高森 壽、内藤貴美子：家庭科教育における学習意欲—小学校段階における検討—、熊本大学教育学部紀要、第36号、人文科学、111-124、1987
- 3) 兼信英子、奥村美代子、高森 壽、内藤貴美子：家庭科教育における学習意欲—中学校段階における検討—、熊本大学附属教育工学センター紀要、第5号、109-116、1988
- 4) 九州地区における家庭生活領域の研究—家庭科教員の意識と実態—、日本家庭科教育学会第35回大会（1992・7、鹿児島）発表資料